

B枝は下垂したりねじれたりしない

C 細葉 葉や花は総て互生する

D 細葉 葉裏はやや白味がある

E葉は広被針形-長楕円形が標準

F裏側脈はほぼ平坦-微凸 若葉表(中脈除く)は毛僅少-無毛 葉柄の残毛は微少 新枝は多毛-散毛-無毛

G葉裏は初めやや多毛;側脈は両面やや見難い

托葉は尾状鋭尖頭、卵形(-やや曲)、着点より下部が丸く膨らむ 道、北陸、近畿以西に分布〔シダレヤナギ節7〕

(HY、道、北陸、近畿以西、湿地)(高木;葉5細)【03オオタチヤナギ】

新葉は脱落生の毛に被われ、中脈(密毛)残しほぼ無毛

葉表は毛僅少-すぐ無毛、中肋散毛 無毛 葉裏はやや多毛 すぐ無毛、中肋散毛 無毛

葉表は緑、艶あり、全面白点散在感あり;裏は白味あり

葉の中脈は両凸;葉表は側脈平坦;葉裏は側脈平坦-微凸(ほぼ平坦だが、稀に凸感);側脈は両面やや不明

低波鋸歯-低鋸歯;腺先は下向きで縁に向かう

葉は広被針形-長楕円形-被針形-広卵被針形 90-120mm、巾12-30mm

葉柄は若葉で上面密毛 ほぼ無毛;毛は早落性 葉柄は10-18mm位か?

托葉は鋭尖頭、卵形-長卵形(-やや曲長卵)、鋸歯縁;基部に腺少数密集-少数;早落性

新枝は多毛-散毛;毛は早落性 若枝はやや無毛、芽は毛密生 やや無毛

(オオタチヤナギ;托葉は着部より下側が丸く膨らむ、頂部は尾状鋭尖頭 ジャヤナギ;托葉は着部より上に伸びる、頂部は漸鋭頭-短尖頭;山口)(オオタチヤナギ;若葉は多毛 ジャヤナギ;新葉はすぐ無毛;山口)

(遠目で;成葉濃い緑だがタチヤナギの方が更に緑濃い;成葉は大きな葉が残っている;若葉は明緑、縁反る感じに見える;山口)

(H;1次側脈は先で近づき平行でない)(Y;葉はジャヤナギに似るが中央部が最広;ジャヤナギは下膨れ)(T;側脈はジャヤナギより角度広く葉縁に向かう)(本種は、苞の形質、雄しべ2、雄花の腺体2、雌花柱頭が外曲するなど、シダレヤナギ節である;山口)

園芸品;【レンギョウヤナギ=コガネヤナギcv;(KT)春の芽だしごろ葉白く緑葉がない】

S0にコウライヤナギあり;【コウライヤナギ;(S0、中国以南)葉は裏中脈付近に毛があり、外は無毛;両面中脈除き無毛;細鋸歯;成葉は被針形、80-130mm、巾12-25mm;葉柄は5-10mm、無毛;若枝は短毛少しあるか、早く無毛になる】

G葉裏は初め毛極散生、時に蠟白帯びる;側脈は表から明らか

托葉は短鋭尖頭、曲長卵形、着点より上に伸びる〔ジャヤナギ節〕

(SGOHKTY、本以南<関東以南に多>、湿地)(高木;葉45細) 雌株のみ【03ジャヤナギ】

新葉は脱落生の毛僅かにあり、すぐほぼ無毛

葉は表ほぼ無毛-毛僅か、中脈に微毛やや多 すぐ無毛

葉裏は毛極散生 すぐほぼ無毛、中脈に毛やや多数 すぐ無毛

葉表は緑、艶あり、全面白点散在感あり;裏蠟質被り白色-やや帯白青灰色

葉の中脈は両凸;側脈・細脈はほぼ平坦;表から側脈明らか;細脈透視

やや深い波状鋸歯-低波鋸歯;腺先は下向きで縁に向かう

成葉は広被針形-長楕円形-被針形-卵楕円形、45細型 100-160mm、巾10-25mm

葉柄やや多毛 微毛残る;毛は次第に脱落 葉柄5-18mm

托葉は漸鋭頭-鋭尖頭、曲長卵形-偏長卵形、鋸歯縁;基部に腺密集(少数);早落性

新葉の中段縁は淡褐色帯びるが、片側がやや薄色

(タチヤナギの新葉のように左右均一な色付きではない)

新枝はやや多毛 すぐ無毛

(G;シロヤナギに比し葉が大きい)

(T;低地から山間部に普通であったが、新規繁殖がないから近年めっきり少なくなった)

(H;オオタチヤナギに似るが、本種の第1次側脈は平行して乱れず、枝端の若葉は殆ど無毛に近い)

(GKTはシダレヤナギ節とする。Sは雌花の腺体が2個あることから、ジャヤナギ類としてシダレヤナギ類から分けている。ここではSに準じてジャヤナギ節としておく;山口)

基本種;【ベキヤナギ(ウンリュウヤナギの母種);(SG0、植栽)(高木;細葉)枝垂れず;小枝は細くて無毛 成葉50-80mm】